



## ～授業参観・PTA総会へのご参加ありがとうございました～

校長 加納 素介

4月23日(日)、第1回授業参観と平成29年度PTA総会・学年懇談会が行われました。参加率100%のPTA総会は、保護者の教育に対する関心の高さを表していると感じました。

総会での校長挨拶では、今年度の学校の課題をお伝えしました。1つは、11月30日開催される金銭教育研究発表会に向けて、地域との関わりを大切にしながら、陶が誇る文化、地場産業である「焼き物」を全校でつくることを通して、感謝や自立の心を育てていきたいとお伝えしました。

2つめは、平成30年度の新校舎(旧陶中学校)移転に向け、子どもたちの安全を最優先にし、学校機能の空白をつくらないようにしたいとお伝えしました。

大きな課題ではありますが、子どもたちが旧校舎への感謝と新校舎での新たな伝統づくりに向けての気持ちを高めていけるよう、移転を意味のあるものにしていきたいと考えています。

また、日常生活の中では、「望ましい人間関係」「学力の向上」「安心・安全な学校づくり」を重点とし、その実現に向けて、学校と家庭、地域との信頼感を高めていくことで、子どもたちの笑顔があふれるようにしていきたいという願いを伝え、PTA総会での挨拶といたしました。



【陶小の良さを伝えた1年生を迎える

## 知的活動の基盤は正しい日本語を使うことにあります

「先生、トイレ」「お母さん、水！」というように、単語による会話は早くて簡単なものの代表です。一昔前の家庭では「風呂、飯、寝る」という単語だけの会話もあったようです。

子どもたちには、「先生、授業中すみません。トイレに行かせてください。」と、文で言えるように育てるべきだと考えています。「お母さん、のどが渴いたから、お水をください」と、文で言えたなら、親子の間に渴きは生じないと思います。

先生が「平行四辺形の面積は、高さと何が分かっていると求められますか」と問い、子どもが「底辺が分かれば求められます」などと文で答えたら、その子の理解は深まっていると考えます。

小学校の学習指導要領では、国語科をはじめ各教科の中でも、言語活動を大切にしています。それは、考えたことや行動は言葉によって表現し、言葉を遣って考え、言葉によって判断しているからです。つまり、言語活動は知的活動の基盤となっているのです。そこで、観察・実験、見学して分かったことや考えたことなどは、記録させたり、レポートにまとめさせたりしています。式を立て、計算をして答えを書くだけでなく、なぜそうなるのか、どうしてそれでよいのか、根拠を挙げて説明できる力が重要になります(答え合わせなどは間違えた理由を知ることを大切にします)。

これまで学習したことを結び付け、これもそうなるのではないかと考え(類推)、いくつかの例に共通することから、このようなことが言えると考え(帰納)、既に学習して分かっていることを基に論理的に考え(演繹)、筋道を立てて説明できるようにすることを求めています。

体験したことを言葉や図、式などを使って表現し、自分のものとするすることで、知識・技能、考え方などが整理できます。また、学び合いや教え合いでの言葉は、知的なやりとり(コミュニケーション)に役立ちます。単語ではなく、文で会話する癖をつけることで考える力は高まります。

また、考える力が高まった子どもの会話として、相手を気遣う一言(挨拶)や相手の反応に合わせた会話が成立するようになってきます(上手な挨拶は相手を気遣う一言が決め手です)。

単語だけの会話では、お互いの心も渴いてしまいますし、考える力も高まりません。学校では、授業の中で言葉を大切にし、正しい(美しい)日本語の指導をしていきます。ご家庭や地域でも、意識して子どもたちの言葉遣いに関心を寄せていただければ幸いです。